

「ちば・ふるさとの学び」 ～郷土に自信と誇りを持てるような教育の推進～

日本をリードする教育県を目指し、子どもたちが、郷土と国を愛し、真の国際人として活躍できる「教育立県ちば」の実現に向けて策定された千葉県教育振興基本計画「みんなで取り組む『教育立県ちば』プランの施策の一つに、「歴史と伝統文化に親しみ、郷土を愛する心を育てる」ことを位置づけています。

そこでは、「子どもたちが実際に歴史や文化に触れ、郷土や国の発展のためにつくした先人の生き方を学び、自分の学校や地域への誇りと愛着、自らが地域づくりを担うという意識を培うことにより、郷土や国を愛する心を育てます。さらに、日本が世界に誇る伝統文化、質の高い芸術作品や、一流の演奏に触れる機会の充実を図り、子どもたちの豊かな情操、創造的な感性をはぐくむとともに、自国の文化や歴史・伝統のすばらしさを理解させることにより日本人としての自信と誇りを持たせます。」と方向性を示しています。

この実現のため、県教育委員会では、中学生が、ふるさと「ちば」を再認識・再発見し、そのすばらしさを理解できるよう、授業等で活用できる副読本を作成しました。

テキストは、「生物多様性」「歴史・文化・伝統」「食文化・健康・食育」「防災・安全・安心」「夢・仕事」のテーマごとに、千葉県の豊かな大地とそこにはぐくまれた「人」「もの」など、「ちばらしさ」を伝える内容を、それぞれ本文・課題・資料によって学習します。

県教育委員会では、中学生がこの学びを通して、ふるさと「ちば」のすばらしさを再認識するとともに、その良さを実感し、郷土の未来と自己の生き方を考えながら、これからの社会をたくましく生き抜く力を獲得してほしいと考えています。

また、先人の生き方を学ぶことで、人は助け、助けられることが大切であるという意識や、新しいことに挑戦しようとする意欲、最後までやり遂げようとする態度を身につけてほしいと考えています。

ふるさとを形成するのは、わたしたち県民一人一人であり、人々のふれあいであり、先人の知恵や努力であり、豊かな自然・歴史・文化・産業です。

今こそ、生徒一人一人が、ふるさと「ちば」と「わたし」の関係を見つめ直し、新たな発見を通じた「生き方」を考える機会にしてほしいと思います。